「豊かな体験活動推進事業ブロック交流会研究発表」

【小学校・自然に関わる体験活動】

「自然に近づき　自然を引き寄せる」

神戸市立なぎさ小学校

１、取組みのねらいや内容

第１年次（平成１４年度）

自然体験活動の基礎づくり

・豊かとはいえない自然環境の中に自ら自然を作り出す試み。「**自然を引き寄せる**」活動として栽培、飼育、実験観察器具の工夫、ビオトープの活用など自然に対する感動を呼び起こすような体験活動の計画を各学年の教育課程の中に位置付け基盤を作っていく。

・身近な地域の自然、自然にふれる機会を積極的に利用していく試み。「**自然に近づく**」活動、フィールドワークとして校外学習、宿泊体験活動などの計画を各学年の教育課程の中に位置付け場所の選定などを行う。

地域の福祉施設等との交流の基礎づくり

・地域の養護学校、高齢者との交流を通して互いを知り理解を深める基礎を培う。

・地域の施設との交流を通して、異文化理解を深める機会を持つ。

・地域の施設との交流を通して、人と人とのふれあい、つながりの大切さに気付く。

２、教育課程上の位置付け・活動の概要

○　　自然に関わる体験活動

校区に身近な摩耶山、六甲山、生田川の自然を活用した体験活動を行う。全学年を通して、各教科、総合的な学習の時間、特別活動の時間を利用する。特に今年度、来年度の２年間は平成１５年度　全国小学校理科研究大会　兵庫大会開催を控え理科学習における自然体験活動を重点的に行う。

《活動例（一部）》

４年生　「ネイチャーワールド　六甲を探る」

理科　「生き物のくらし　①　春の自然」

「生き物のくらし　②　夏の自然」

「生き物のくらし　③　秋の自然」

「生き物のくらし　④　冬の自然」

	実施時期	場　　所	ね　ら　い
1	4月中旬	生田川下流から市が原	春らしさをいろいろな場所で見つけ、１年間継続観察するポイントを決定する。
2	5月上旬	生田川下流から市が原	グループの観点にしたがって、春の自然の様子を観察・記録し、帰校後、観察マップ上にまとめる。
3	7月上旬	生田川下流から市が原	グループの観点にしたがって、夏の自然の様子を観察・記録し、帰校後、観察マップ上にまとめる。飯盒炊さん・川遊びを楽しみ、林間の落ち葉による保水作用を実感する。
4	9月下旬	摩耶山からトゥエンティークロス	高地、低地へと移動することで、高度による動植物の違いを実感する。山道の楽しさとこわさを体感し自然の厳しさにふれる。
5	１１月中旬	生田川下流から市が原	グループの観点にしたがって、秋の自然の様子を観察・記録し、帰校後、観察マップ上にまとめる。季節による動植物の変化（落葉、紅葉、常緑、個体数の減少）を実感する
6	1月下旬	生田川下流から市が原	グループの観点にしたがって、冬の自然の様子を観察・記録し、帰校後、観察マップ上にまとめる。
7	3月上旬	生田川下流から市が原	グループの観点にしたがって、自然の様子を観察・記録し、動植物の春への準備の様子に気づき、来年度への足がかりとする。

○　交流に関わる体験活動

地域の諸施設においての高齢者や障害のある人々との交流を通して、人と人とのつながり、肌と肌とのふれあいから「やさしさ」「おもいやり」の心を体験的に理解させる。

《活動例（一部)》

３年生　「ふれあい HAT 神戸」

社会科　　「昔のくらし」

総合的な学習の時間　「大好き HAT 神戸　～ HAT 神戸の今・むかし・未来～」

	実施時期	場　　所	ね　ら　い
1	5月上旬	青陽東養護学校	障害のある人たちとの交流を行い互いの理解を深める。
2	6月中旬	ハピータウン、ケアポート（特別養護老人ホーム）	地域の施設との交流を通して、人と人とのふれあい、つながりの大切さに気づく。
3	10 月中旬	コミスタ神戸「個性とハートの祭典」参加（生涯学習支援センター）	地域の施設での活動を通して障害のある人たちと一緒に作品を制作し、互いの交流を深める。
4	1 2月上旬	地域福祉センター	地域の高齢者との交流を通して互いを知り、理解を深める。
5	1 月中旬	敏馬神社	地域の方のお話を聞き、地域の歴史について調べ、自分の地域に愛着を持つ
6	2 月初旬	震災記念 人と防災未来センター	震災の教訓を生かし、人と人との助け合い、ふれあいの大切さを理解する。
7	3 月初旬	地域福祉センター	地域の公園設立計画に参画し、地域住民の一人としての自覚を深める

３、　活動の評価方法

(ア)　自然に関わる体験活動《4 年》

・　観察マップの活用

各体験場所での活動後、各自の観察記録を学校で観察マップ上にまとめたものを評価する。（個人観察マップ、グループ観察マップ）

・　チェックリスト票の活用

生田川下流から市が原までの間をＡ～Ｂの 4 ポイントに分けて各場所で観察・記録を行った。引率教師、保護者引率者（児童にはリーダーとして紹介）が各児童の活動内容をチェックリストで確認し、教師が評価する。

(エ)　交流に関わる体験活動《3 年》

・　交流新聞の活用

各施設での交流会の後、各学級で児童の記録をもとに作成した交流新聞を評価する。

・　お礼のお手紙、作文・詩集の活用

各施設での交流の後、各学級で各施設の方々や、高齢者等に作成したお礼のお手紙、作文・訴集を評価する。

４、　学校支援委員会の組織運営

(1)　学校の推進体制と学校支援委員会の運営

教育活動全般の中に、本事業の趣旨を反映させるため、本校の特色のある教育活動を企画、立案していく組織である「なぎさ教育推進委員会」のプロジェクト部門に「豊かな体験活動推進事業」を位置付ける。学校支援委員会のメンバーの協力を仰ぎ積極的に体験活動の計画を実践していく。広く地域、保護者にも情報を発信し、啓発を図り理解を深めていく。

4 月　学校支援委員決定　承認・依頼
5 月　第１回学校支援委員会　計画案提案
6 月　体験活動開始～（各学年）
7 月　ＨＡＴふれあい大運動会（小中合同　地域交流）開催
１０月　全国小学校理科研究会事前研究会開催（自然体験活動発表　地域交流）
１１月　ＨＡＴクリーン作戦（小中合同・地域交流）
１月　震災祈念集会　1.17 メモリアルウオーク・会場型防災訓練参加（地域交流）
３月　次年度への引継ぎ、次年度委員選出

(2)　学校支援委員会の構成

氏　　名	勤務先又は機関・団体名	職　　名	備　　考
	神戸市立なぎさ小学校	校　　長	支援委員会総括
	神戸市立なぎさ小学校	教　　諭	実務担当
	神戸市立なぎさ小学校	教　　諭	推進係
	なぎさ小学校保護者	世話係	委員
	なぎさふれあいの街づくり協議会	委　員　長	委員
	ふれあいの街づくり脇の浜協議会	委　員　長	委員
	ハピータウンKOBE	施　設　長	委員
	ケアポート神戸	施　設　長	委員
	兵庫県国際交流協会	課　長　補　佐	委員
	神戸歴史クラブ	理　事　長	委員

5、　活動の成果

新しい街に開かれた学校で、全員が転入生である。そのため児童・保護者が校区や地域の自然について知識、関心がうすいのが現状であった。平成１５年度の全小理大会をふまえて、全学年での理科、総合的な学習の時間、生活科での自然体験活動など年間を通し数多くの経験をすることによって児童は六甲、摩耶という身近な自然に興味を持てるようになった。また、保護者や地域の方々にも学校側の呼びかけを通して地域の自然の活用を啓発できた。特に年間７回以上の活動を行った４年生の保護者は会を追うごとに体験活動への参加者も増え、全体験活動に参加してくださった保護者も出てきた。その他の学年でも保護者の参加が数多く見られ、土日の休日に学校で体験活動を行った場所へ家族で出かけるなどの効果も見られた。

6、　今後の課題

自然にかかわる体験活動において、今年度は全小理研究会に向け、理科の取組みを中心に行った。今後、計画を進めていく中で本事業の教育課程上における位置付けを研究していかなくてはならない。また、活動場所や内容などにおいて各学年の児童の発達段階に応じた体験活動のあり方を探っていきたい。

交流活動においては地域施設との双方向的な交流の推進を図っていかなくてはならないと考える。